INTERVIEW

小笠原村診療所 管理者
亀﨑 真先生

島の医療のやりがい,島の生活の楽しさを感じて

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

父島との出会い

山田隆司（聞き手）　今日は父島にある小笠原村診療所を訪ねました．いつになく海が荒れていましたが，長時間の航海を経て，なんとか無事に着きました．

地域医療振興協会と小笠原地域とは以前からさまざまな形で関係を持たせていただいていましたが，一昨年，亀﨑先生からお申し越しをいただいて，小笠原村診療所と台東病院，そして急性期を預かる広尾病院との間で，入院患者さんの帰島に向けての調整のお話がありました．先生とはそれ以来，お付き合いさせていただいています．

今回小笠原村を訪ねる機会があり，先生にインタビューさせていただくことにしました．先生がここで仕事をされるようになったきっかけ，今後に向けた島の医療の展望などを伺えたらと思います．まずは先生の経歴を紹介していただけますか．

亀﨑 真　私は九州の熊本県出身で，熊本大学を平成９年に卒業後，熊本大学の外科の医局に入局しました．外科の研修で熊大の外科の関連病院などを回っている最中に，先輩から，同門の中だけで勉強するより，例えば東京のほうに行って勉強することも考えたらどうかとアドバイスをもらって，都立駒込病院の外科の後期研修に行きました．医師４年目です．そこで３年間，外科の後期研修をしました．そのときに都立病院の関連の縁で，都立墨東病院の救命センターに研修の一環でまわっていた時期があり，シニアレジデントが終わったタイミングで，都立墨東病院の救命センターに就職しました．

墨東病院の救命センターは都内でも規模が大きい方で，完全独立型の救命センターという全国でも特殊な形でした．後方病棟も持っていて，救命センターの中で初期対応から根本治療まで完結するというタイプで，仕事も面白かったのと，私は一応外科医というサブスペシャルで仕事をさせてもらうことができたので，外科の救急領域や外傷外科など，ほかではできないような仕事をさせてもらって，結局12年間，墨東病

院の救命センターにいました．

そのままそこにいる選択肢もあったのですが，一つは，都心の救急をやっている中で，医療の中で地域医療というのがとても重要だと思ったこと．例えばがんの末期の状態で救急を受診してしまう患者さんがいたり，いろいろな社会的背景の中で救急を受診してお困りになっている患者さんも多かったりしたので，それが地域医療によってカバーできる部分もあるということを実感しました．それを感じていつか救急から地域医療のほうにシフトしていくのではないかと，自分の中でイメージがありました．

それからもう一つ，この小笠原とのご縁は，私の妻が元看護師で，墨東病院のERで看護師をしていたのですが，結婚してすぐのころ「へき地医療をやってみたい」と言って，ここに単身で看護師として働くことになったのです．

山田　先生ではなく奥様が先に単身でですか？すごいなぁ．

亀﨑　やりたいと思ったらやってしまうタイプなのですね．ちょうどここが国保施設として新設して新たに募集をしているタイミングでした．最初は１年だけならということで彼女がここで働き始めて，結局１年半いました．

その１年半の間に，私は代診で１回，あとは夏休みを利用して，３回小笠原に来ました．それまで小笠原がどういうところかほとんど知らなかったのですが，妻が働いたこととその３回の訪問でよく知るようになりました．彼女は１年半ここで働いた後はまた墨田区に戻って，私も墨東病院の救命センターで勤務を続けていたわけですが，その後，時々小笠原村の医療課の係長から連絡があり，「ドクターの欠員が出るのだけど，先生，どう？」というような話を頂きました．私自身，いつか地域医療にシフトしようかと考えていましたし，地域医療の一つとしてへき地医療は重要なことではないかと考え，平成27年から勤務しています．

山田　なるほど，そういう縁だったのですね．

島の医療の難しさ

山田　先生は志もあってここに来られたわけですが，着任されてどうでしたか．

亀﨑　ある程度ここの特殊性は認識していたのですが，やはり心配だったのは，全科を診なければいけない，そして簡単には他に紹介できないということで，来て一番苦労したのはやはりその部分でした．

山田　全科を診ることと，適切に紹介をすること．

亀﨑　そうですね．救急で働いていたとはいえ，眼科や耳鼻科，皮膚科のようなマイナー科の患者さんを診る機会は少なかったので，自分の知識不足，経験不足を痛感しました．

山田　先生が着任されたときは上に所長の先生がいらっしゃったのですね．

亀﨑　はい．田中靖士先生がいらっしゃいました．

山田　田中先生は主に内科系だったのですか．

亀﨑　いえ，実は田中先生も外科だったのです．なので，広尾病院にコンサルトしたり，自分の知っている専門の先生に相談したり，つてを利用しながら，患者さんもここが特殊だということはご存じなので，「すぐに分からないので専門の先生に確認してお返事します」とストレートにお話ししてやっていました．

山田　こういった中規模離島では，先生のような救